



RENKEI

第22号

2022.11

発行元 **松江市在宅医療・介護連携支援センター** TEL: (0852) 61-3741 FAX: (0852) 21-5377
メールアドレス: renkei@shakyou-matsue.jp
住所: 〒690-0852 島根県松江市千鳥町70番地 松江市総合福祉センター1階 社会福祉法人松江市社会福祉協議会

ホームページもご活用下さい >>> [松江市在宅医療介護](#) [検索](#)

令和4年度 まつえアドバンス・ケア・プランニング 普及啓発推進協議会 総会・研修会が開催されました!

※ACPとは…もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて、前もって考え、くり返し話し合い共有するとりくみのことです。

8月31日、まつえアドバンス・ケア・プランニング普及啓発推進協議会(以下 ACP 協議会)総会・研修会が開催されました。ACP 協議会は“市民の方ひとりひとりを支えるすべての関係者が、切れ目なく本人の意向を実現するしくみ



づくり”を目的として発足しました。市内の医療・介護の専門職と関係団体が集まり活動しています。この度の総会では、松嶋会長(まつしま脳神経内科クリニック)より総会開催のご挨拶があり、その後今年度の取り組みや会則変更について決議を行いました。今年度は、コロナの状況を見ながらではありますが、市民向けの公開講座の開催、終活支援ノートの出前講座、デジタルサイネージを利用した普及・啓発などに取り組んでいく予定です。

そして総会後には、「ACPを学ぼう!～地域に対して私たちが出来ること～」をテーマに鳥取市立病院の足立誠司先生(令和4年10月より国民健康保険智頭病院院長)に講演をしていただきました。

講演では、ACPに関する定義や歴史、認知バイアスの考え方等の実施方法に関する問題、さらに鳥取県東部の取り組みなど、基本的な情報から進める上での課題や知識、参考となる情報等が網羅されており、大変学びの深いものになりました。

研修に参加した委員からは「ACP 普及への先進的な取り組みを知り、ACP 普及啓発の取り組みへの意味付けができた」「ACP 協議会委員としてどのように行動するか考える機会となった」等の感想があり、今後の活動に活かすことのできる有意義な研修会となりました。



まつえ ACP 協議会の令和4年度の活動

- (1) ACP 普及・啓発の推進にかかる協議・検討 ○幹事会(年に2~3回開催予定) ○総会・研修会(年に1回開催予定)
- (2) 市民を対象とした講座の開催 ○全市を対象として開催 ○公民館等の地区単位を対象として開催など
- (3) 医療職及び介護職向けの研修会の開催支援 ○各機関で開催されるACPに関する研修会等の情報周知
- (4) 市民向け啓発媒体の作成 ○わたしの思いをつなぐノート(終活支援ノート)の配布及び活用 ○啓発動画の周知など

まつえアドバンス・ケア・プランニング普及啓発推進協議会委員で公民館代表の長澤委員は、地域住民への普及啓発活動にご尽力されています。この度、ACP についての活動や思いについてご執筆いただきました!

わたしの思いをつなぐノート(終活支援ノート)を手にとり見てみましょう!

松江市津田公民館
館長 長澤孝之

アドバンス・ケア・プランニング(ACP=人生会議)は、もしもの時に備え、病気やケガの治療に関することや介護に関すること、また自分が歩んできた人生とこれから希望する人生や相続・後継問題、葬儀・お墓の



ことなど医療介護に直接関係しないことなどについて自分で考えたり、ご家族・ご親族の方や周囲の信頼する人たちと話し合うことだと思います。

ACPに関する具体的な内容などについては、「終活支援ノート」に網羅されており、生涯の流れに沿って手順よく記載できるように構成されています。各公民館に配備されていますので、是非、終活支援ノートを手にとって、自らが考えたり、お盆やお正月など本人、家族が集まった時などに話して記録してみてください。そして、このノート1ページの「書こう、話そう、あなたの人生のこと」からはじめましょう!

私は、23年前、交通事故で生命を絶たれる寸前の事態になったことがあります。誰でも、いつでも、命に関わる大きな病気やケガをする可能性があることを痛感し・省みて、終活支援ノートの活用への取り組みを強くしました。

私は、まつえ ACP 普及啓発推進協議会に公民館代表として参加しています。その関係で「終活支援ノート」の活用について、各公民館へは、社会福祉協議会、民生委員・福祉推進員さんの日頃の活動の紹介、なごやか寄り合い事業や地域のみなさまを対象にした講座の開催な



左：長澤館長 ～津田公民館終活支援ノートの講座の様子～

どをお願いしており、すでに活動を展開されている公民館もあります。津田公民館においても「終活支援ノート」の活用について講座を開催し、大変好評でした。

最後に、医療介護機関、公民館を含めた地域の福祉諸団体がそれぞれの立場で、つなぐ・つながる・つなげる RENKEI 体制により、ACP がどこでも共通の話題となるよう、「終活支援ノート」の活用をはじめ、ACP の普及・啓発の推進に努めて参りたいと思っています。

いざという時に役立つ「救急車利用チェックシート」

救急要請時、迅速な情報共有のツールとして、現場に到着した救急隊員が、使用している傷病者情報（松江市消防本部作成）「救急車利用チェックシート」（以下シートと略す）を昨年度、紹介いたしました（広報誌RENKEI20号に掲載）。

今年度は、高齢者施設等での活用を目指し、松江市消防本部、松江市と共に、急性期病院の意見もいただき、その内容を検討してまいりました。

「事前記入欄」と「救急要請時記入欄」があり、「事前記入欄」は、事前に該当項目を記入しておき、「救急要請時記入欄」は、搬送時に記入してもらうようにしました。

救急要請時、施設から救急隊への円滑な情報伝達にシートを活用し、迅速な医療機関への搬送、早期治療へ繋ぐことができるようご利用いただきたいと思います。

救急車利用チェックシート(案)

患者さん情報（事前記入欄） 記入日： 年 月 日

【ふりがな】		性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性
【氏名】			
【生年月日】	T S H R	年 月 日	年齢（ 歳）
【住所】			
【既往歴】			
【現病歴】			
【服薬状況】	<input type="checkbox"/> 抗凝固剤 <input type="checkbox"/> インスリン <input type="checkbox"/> 降圧剤 <input type="checkbox"/> その他（ ）		
【アレルギー】	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 有の場合（ ）		
【普段の様子】	<input type="checkbox"/> 支援なし(認定申請未も含む) <input type="checkbox"/> 要支援1 <input type="checkbox"/> 要支援2		
	<input type="checkbox"/> 要介護1 <input type="checkbox"/> 要介護2 <input type="checkbox"/> 要介護3 <input type="checkbox"/> 要介護4 <input type="checkbox"/> 要介護5		
	【特記】		
【主となる家族等】	氏名（ ） 続柄（ ）		
【家族等の連絡先】	電話（ ）		
【かかりつけ医】	（ ） 病院・医院（ ） 医師		
【搬送希望医療機関】	病院名：		

シートは、当センターホームページからもダウンロードできます。

松江市社会福祉協議会

高齢者に関すること

松江市在宅医療・介護連携支援センター

地域医療・介護の資料集

救急に関すること

救急車利用チェックシート



救急要請時記入欄 ※記入できなかった場合は、口頭で救急隊へお伝えください。

最終健常時刻	時 分	※ 院内治療で必要になる場合があります。
※ 準備してほしいもの ・お薬手帳か薬の現物		
呼吸： 回/分 脈拍： 回/分 血圧： /		
体温： °C SPO ₂ ： % 酸素（ %）		
救急車への施設職員等の同乗について		
○ 搬送先医療機関での早期治療に繋げるため、救急車への同乗にご協力ください。		
○ どうしても救急車に同乗できない場合は、施設の連絡先と担当者氏名をご記入ください。医療機関から問い合わせがあった場合は、詳細な情報を伝達してください。		
施設名：	施設連絡先：	担当者：

*本記録表は、救急業務以外に使用しません。救急搬送終了後に、救急隊が責任をもって始末いたします。
*救急要請時に本記録を使用することを、予め、患者・家族の了承を得ておきましょう。
【 松江市消防本部 】

松江市在宅医療・介護連携の取り組みについての紹介 (糖尿病地域包括ケア研究会)

8月19日、糖尿病地域包括ケア研究会に参加し、松江市在宅医療・介護連携の取り組みについて、在宅医療の提供体制に求めている医療機能の4つ場面“①退院支援の場面、②日常の療養支援、③急変時の対応、④看取り”に沿って事業の説明をしました。

今後もこのような場に積極的に参加し、松江市の医療・介護連携の取り組みについて関係者に周知をしていきたいと思えます。

また、講演後に、参加された先生方と有料老人ホームやサービス付き高齢者住宅のインスリン利用者の受け入れについて意見交換を行いました。高齢者施設のインスリン利用者の受け入れ状況は厳しく医療と介護の連携の課題の一つです。

今年度の施設調査では、なぜインスリン利用者の受け入れが困難なのか、その要因はどういった部分にあるのか(例えば、施設の方針なのか?そのほか人員の問題なのか?)など、施設に対して調査をする予定です。

インスリン利用者の施設利用についてなど、療養場面の医療・介護連携についての課題に対して、今後も当センターで取り組んでいきます。

第7回 糖尿病地域包括ケア研究会

2022年8月19日(金) 19:00~20:40
くにびきメッセ 5階 501
〒690-0826 松江市学園第1丁目2-1 TEL:0852-24-1111

製品紹介 19:00~19:10 日本ペーリンガーインゲルハイム株式会社

奥村医院 院長 対策会議委員長 奥村 剛清 先生

講演 I 19:10~19:40

『 **松江市の在宅医療・介護連携における取り組み** 』

松江市在宅医療・介護連携支援センター 保健師 介護支援専門員 錦織 梨紗 先生

講演 II 19:40~20:40

松江赤十字病院 糖尿病・内分泌内科部 部長 垣羽 寿昭 先生

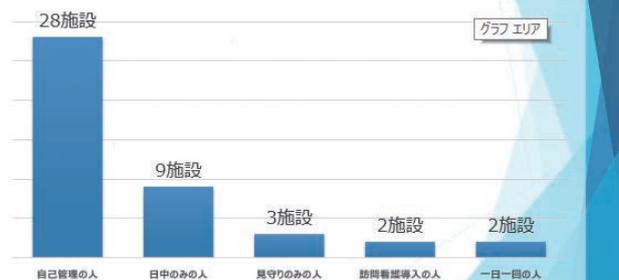
『 **コーディネーターを活用した地域包括的な医療連携
～「疾病の理解」を意識した糖尿病診療をめざして～** 』

社会医療法人シマダ 嶋田病院 内科部長 赤司 朋之 先生

サ高住・有料老人ホーム
インスリン利用者受け入れ状況
(令和3年度調査結果より)



サ高住・有料老人ホーム
インスリン受け入れ状況 (令和3年度調査結果より)



こんな相談をいただいています

相 談	対応・結果
訪問看護ステーションをお願いしようと思うが、各訪問看護ステーションが何を得意としているかわからない。	当センターホームページの医療と介護資料集にある「松江圏域訪問看護ステーション一覧」を紹介した。
松江市内及び同じ医療圏域(安来市を含む)の研修会実施状況および開催時の周知方法について知りたい。	当センターホームページの研修情報及び関係事業所への周知方法などを紹介する。